

小中一貫校 計画

「結論さきにあき」ではなく、父母や先生 の声を聞き、十分な議論を



武蔵野小学校



第3中学校

一貫校に？



羽村市教育委員会が設置した小中一貫教育校検討委員会は、平成 22年度から、「小中一貫教育校」を武蔵野小と3中でおこなうこと、その後、結果を見て、全市的に展開していくとした「中間報告」を発表しました。いじめ、不登校、学力の問題、先生の不祥事など、課題が山積の教育が、小中一貫校の設置でよくなるのかどうか、考えてみました。

小中一貫校はもう決まったの？

——教育委員会は「やる・やらないも含めてこれから議論する」

マスコミでは「小中一貫校（20）10年度開校へ」との報道がなされています。市民からは「小中一貫校にすることがいつの間に決まったの？羽村学園っていうんだって？」などの声も寄せられています。

しかし、教育委員会は「あくまでも中間報告が提出された段階であって、やる・やらないも含めてこれから議論をしていく」と説明をしています。

市内の小中学校で実施されている2学期制。「十分な説明や議論なしに実施にうつされ、しかも効果がどうだったのかの検証はなされていない」と根強い疑問の声があります。

同じように今回の小中一貫校構想についても、教育委員会のトップダウンで事がすすめられてしまい、子ども・父母・先生がおきざりにされてしまうのでは？という危惧を感じます。

子どもをめぐる様々な課題の解決のためには、学校だけでなく、家庭・地域・行政が協

力して、知恵を集めてとりこんでいくことが不可欠です。小中一貫校構想についても全市民的に十分な議論をおこなったうえで、どうしていくのが最良なのか考えていくことが必要ではないでしょうか。

「中間報告」ではどんなことが示されたの？

「中間報告」では、これまでの小学校6年・中学校3年から、前期（1～4年）・中期（5～7年）・後期（8、9年）に区分けを変更するとしています。カリキュラムを改善し、中期から、中学校でおこなっている教科担任制を導入します。

一貫校の効果として きめ細かい指導による個性や能力の伸長 創意工夫を生かした教育活動 異年齢交流による人間性や社会性の育成 学力の向上 いじめ問題などへの迅速な対応 中学入学にたいする不安解消 学校と地域との連携強化、が掲げられています。

また、小学生からの英語の継続的な指導、特色ある学びとして「羽村学・人間学・親学」をおこない、国際化への対応や、郷土を愛し、守っていくことのできる態度や能力を身に付けられるようにする、保護者が学習する機会を設けるとしています。

モデル校として武蔵野小・3中を一貫校とするため、3中と2中へ分かれて通っている松林小・富士見小学区の子どもは、一定期間経過後は、2中への通学を基本とするよう変更します。また、小中一貫校のうち一定人数については、全市的に学校選択で通学を可能にし、その後、全市的な学校選択制についても検討していくとしています。

小中一貫校にして期待できる点は？

中間報告に示されている一貫校の効果は抽象的で、「どうして一貫校にすることが必要なのか」との疑問がまずうかびます。その中で、子どもにとって良い面が生まれるのでは、と考えられる点はいくつかあります。

小・中学校生の交流がすすみ、低学年の子どもには成長の目標が生まれ、高学年の子どもには自覚が生まれるのでは。